

当たるも八卦じゃ困る 農家にとっての天気予報

世の中にいろいろな職業があり、農業と関わりを持つ職業、産業は多いが、国営で3カ月先の占いをし、大外れになっても責任を問われないお仕事があるようだ。TVの天気予報で明日の天気は晴れのち時々曇り、一時雨模様になり、場所によっては雪に変わります、なんて予報を出されたら生産者は納得するのだろうか。農産物を作る生産者にとって天気は死活問題である。

15年ほど前、春小麦の収穫を迎えた朝の予報は「晴れ」であった。11時頃になり残り5haの畑に向かったが急に空模様が怪しくなってきた。まさか予報が外れる訳がないと信じていたのだが、やはり裏切られた。そして本降りの雨になり麦刈は断念。その後12時間降り続き、もともと穂発芽に弱い当時の春小麦は全滅、被害金額350万円也。もし雨が降ると分かっていたら前日に収穫を終えていたであろう。後から聞いた話では隣町、栗山町のK氏もウン千万円の被害があったそうだ。彼の周りの生産者は口々に「あいつも共済に加入していないので大変だな」の1円の価値もない評価をしたが、それを無視するかの様に、彼は年末に土地を

購入して周囲の貧農を驚かせたそうだ。人は順調な時は誰でもそこそこ伸びるが、このような厳しい条件を突き付けられた時に、その人の本来の隠されたDNAが目覚め、その結果、年月が経つごとに経営拡大すると思っ

た。その夕方のNHKのTVでは日本気象協会の人「本日の予報が外れてしまいました。こんなこともあるんですね、アツ、ハッハッ」と思いつきりの笑顔

で、もちろん麦の収穫で北海道では数億の損害があったこと知らずに画面に登場した。翌日、どのようにやればその笑顔が作れるのか興味があったので気象庁に電話した。人生初の「クレマー体験」である。もちろん話の本質である昨日の天気予報が外れ、ひどい損害になったことも伝えた。「一番納得いかないのは放送中、大声で笑った野郎だ、そいつを出せ」と今でもその時のことをはつきり覚えている。気象庁の電話口の係は黙って私の話を聞いていたが、最後にこんなこ

Vol.20 収穫が終わっても 晴れ晴れとした気持ちにやあ……



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

とを言い放した。「お客様との御相談窓口は日本気象協会になり、私達は関係ありません。気象庁ではデータの提供のみを行なっております」。

え、えっ？ つまりこういうことだ。気象庁は基本的にはデータ作りとその提供を目的としていて、予報に関しては天下り団体の日本気象協会で行なうことになっているらしい。そこで私はその

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

日本気象協会はどこにあるのか聞いてみた。電話口の係員はこう言った。「当ビルの5Fにあります」

バカ野郎だ(発言はしなかったが)。自分達の仕事に自信がないものだから、天下り団体に責任を負わせようとするナメクジ根性はキモ過ぎた。

現在では気象庁や独自のデータを使い民間でも予報が出せるようになったことは選択の幅や正確さを競う上で有効と言えるだろう。その後、努力は報われTVで大笑いした彼は、その1週間後から現在まで画面に登場することはなかった。

実は電話ではもっと面白い話をした。当時の話だが、TVやラジオでは「明日の天気」とは言わないそうだが、正しくは「明日の天気予報」が正しく、現在でも気象庁は「予想」という言葉を頻繁に使っている。

この根性の座った電話の係は「それほど天気にご興味があるのだったら有料でスポーツ予報もできますよ、1週間であつた40万円です」だつてさ。その当時、網走の農協では麦刈の適期を予測するために有料で予報をしてもらっているとの情報を聞いていたので、その話をわが町JAながぬま内田組合長に話をした。町全体では40万円では済まない金額であつたにも関わらず、興味を示していただいた。そして現在では無料、そ

うなんです、タダで利用できる営農ウェブ・てん蔵が長沼の生産者の携帯電話に天気予報やスポット予想が送信されることで、的確な短時間予想が可能となつた。それはそれで素晴らしいはずだつたが……。

実はおまけがあつた。出会い系サイトからのお誘いである。最初は分らずに開いたところガンガン来るようになった。同じ携帯電話会社を利用する生産者に聞いてみると、やはり同じ様なお誘いメールがたくさ

んやってくるよつた。その後、JAにクレームを伝えると、その様な報告は初めてだと回答された。パスワードを変更しても数日で同じ結果になつてしまつた。これ以上はマズイと考え、以前使つていた携帯電話の月額1000円の有料ウエザーニュースに戻すことにした。

残念なことに、この出会い系サイトからのお誘いにハマつてしまつた生産者もいるようだ。単純な個人情報漏えいなのだろうか? もしかしてJAの誰かと日本気象協会が組んで将来離農する貧農作りに協力しているのかもしれない。だとすれば、ご協力ありがとう。「タダほど高い物はない」その好例なのかもしれない。

気象庁をバカにしているのではない。世の中100%を当てるなんて不可能なのは誰でも知っているし、

農業のみならず、最終的にはすべての産業、職業に影響を及ぼすこの天気予報が役に立っていることも十分理解している。ただ長期予報、それも3カ月予報は止めた方がいい。まだ覚えているが今年の5月23日発表の北海道3カ月予報では気温は年平均並みから高い、降水量も同じく年平均並みからやや多いであつたが、現実の6月は低温、7月は低温に年平均の3倍以上の降水量でこれには参つた。8月7日からは低温情報が出たがその日から半年の気温になつた。

6月にエルニーニョが発生したのに低温情報も流さず、北海道では台風に気を付けろ? 普通エルニーニョが発生すると太平洋高気圧が弱くなり、低温になり高気圧の西の外周に沿つて移動する台風は本州では多くても、北海道の様な緯度の高いところでは被害が少ないことは自家用パイロット気象の学科試験にも出ている、いわば常識である。

楽に稼ぐためには 手を抜くのが一番!?

それにしても今年の麦は悲惨な状況であつた。地域の麦生産者で全量、等(検査)を受かつたなんて話を聞かない。日々努力を怠らない私は地元で50haを超える地域最大面積の麦を栽培しているが、全量、等(検査)

を通つた。それはそれで大変な騒ぎになる。ほぼ全員規格外の麦でなぜ私だけがというこららしい。簡単である。米国のコンサルタントに土壤分析を依頼しているからだ。

そんな簡単なことで良い作物になるのか疑問に感じる生産者もいるかもしれないが、事実。農業は個人経営であり、それに従事する我々は個人経営者である。基本的に好き勝手な経営をやつても、誰も文句は言わないが、日本の転作田で大豆、麦を栽培することは政権が変わつたとしても農政の呪縛から解放されることはできない。同じような作物を栽培している米国の生産者の多くはコンサルティングを受けている。

実はお金を支払い、黙つて言うことを聞いていた方が楽に稼げるのも本当だ。早い話、知的な部分をコントロールする大脳をフル活用しなくてもいいのだ。もつとはつきり言うると、肥料設計は他人の責任にして、農地の拡大やバカ息子を半バカに向上させる努力にエネルギー転換すべきだ。地元JA関係者の話によるとあ

いつは特殊な肥料と農薬をやつてい